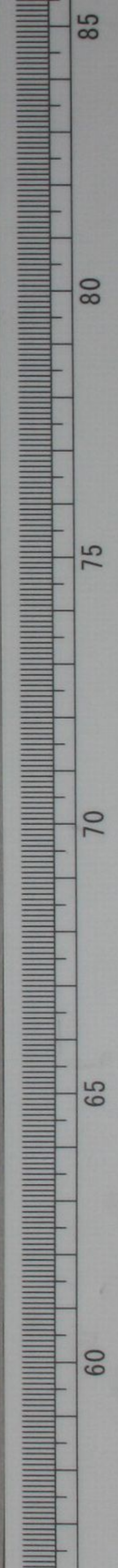




漢字及び字音

服部文庫
イ 17
2214



117 特
2214



漢字及び字音

漢字の渡來 紀元九^五年 應神天皇の十五年
 八月百濟國より阿直岐と云ふ使臣來り彼は
 能く支那の經典を解した^ルに依り太子菟道稚
 郎子之を師とし給へり翌年二月博士王仁、天皇
 の徴に応じて來朝し論語十卷千字文一卷を獻
 上す稚郎子まゝ之を師とし語の典籍を習ひて
 遂に通達し給へり事古事記日本紀等に記され
 たり^ハ此れを漢字渡來の最初と云ふ。然れども
 漢字の如き物が突然として來り突然として廣ま

服部文庫
417
2335

了。べきに非ず。是より二百余年漢後の光武の
 中元二年に倭奴國奉貢朝賀。使人自稱大夫。倭國
 極南界也。光武賜以印綬。と。此事後漢書に見え
 たり。此の印金は今七堵物館に在るべし。此
 は公祖の使人に非りし事論を俟たずと云。我が
 國人が既に彼の國と交通せし事を推定す。に
 難からず。其のは一百七十余年を経て神
 功皇后征韓の御事蹟あり。不十分なり。漢語を
 解す。者無くば。如何でか。彼我の意志を交換す
 るを得んや。然れば彼の王仁の來朝は漢字が公

單に 1020 備文堂印行

然と輸入せられたる径路の發表に過かすべ
 し。此の時獻上せし論語は既に七百年前に成れ
 る古典、千字文は僅々五十年前に撰ばれたる。
 新著なり。
 此等の書籍の漢字の當時の發音を後世
 學言と呼べり。蓋し彼の國にては孔子の没後秦
 漢を経て三國に及び蜀魏先づ亡び吳僅に存せ
 了。次は彼の國の中心は吳主權(明の南京)に集注
 せられたれば我が國人支那を呼びて吳と稱し
 たり。然れば吳音とは猶支那音と云ふか

1172335

如き意味するべく、漢音に對しては、古言と云ふ
 が如しと知すべし。
 文物の榮展（漢字が公知）渡來せしより十二年
 を経過したる時（高麗王の上表に教
高麗王の上表に教
 日本國と有りしを太子怒りて其の無禮を責め
 其の表を破り給へし事日本紀に見ゆ。此れ漢文
 應用の最初なるべし。其の事十八年を経て
 仁徳天皇の四十一年三月遣紀角宿禰於百原始
 分國郡壇場具録郷土所出と題す。此れは
 の歴史に見えたる最初とすべし。又此の事

1020 備文堂印行

後廢中天皇始めて諸國に國史を置き四方の志
 を達し給ひ、二百六十七年の後佛經渡來せり。
 此の佛經は來佛像を奉る事、欽明天皇の二十三年（一三三）
 とすんが、三十年以て、雄略天皇の十六年に梁
 の司馬章等と云ふ者大和國高市郡坂田、勇に草
 堂を構（私に）佛像を安置したるを正史に記すれ
 ば、の公知漢字渡來以前の事は正史に省かれ
 ると同一轍をなすべし。又三十二年を経て推
 古天皇の十五年小野妹子を惜に遣はされし事
 は遣唐使の始にして大に注目すべき事とす。

古くは、彼我の交通頻繁の結果とあり、三三三十年の
 後、孝徳天皇の大化改新となり、文物典章悉く唐
 制に倣せられたるに至り、
 (漢音) 当時彼の國は宛々唐代に對し、大勢の中
 心は洛陽(河南府河南府)より長安(陝西府
 西安府)に移り、南音古音振は亦漸次北方の音
 擴張せられたり、され亦二次の支那音あり、此の
 新音を我が國にて漢音と呼べり然れども、其は
 唐音あり、其は彼我の交際には此の音を用ひたりを
 得たるに至り、其は是に於て、其は持統天皇の頃、大學

1020 備文堂印行

4

寮に音博士を置き、唐音に倣りて古漢音を改正
 せしめり、其は其の博士には唐人を採用せら
 れたり、元正天皇の和銅五年に有る、古事記
 成り、聖武天皇の即御の右には好字(嘉祥文字
 の意あり)を用ひし、元正天皇の養老四年に
 は日本書紀を撰ばれたるが、何れも漢音に倣
 りて記載せられたる日本紀中には、其は漢
 音は僅々七字に過ぎたり、
 (漢音) 漢音の奨励(同年勅令)ありて、其は新音を奨励し、其は余
 音は之を停めらる。聖武天皇の天平七年、右大臣

吉備直備唐より帰朝し學生四百人を以て經史
 法算言語籀篆の六道（六学科）を習はしめた
 る事扶桑略記に見えたり此の言語は勿論漢言
 ちの桓武天皇の延暦十一年勅令を以て漢言
 を學ばしめ、六年の後太政官宣して諸國
 身人等に皆漢言を流ましめ、吳言を用ふる事勿
 らしむ。され漢言學問^音と對稱せし最初なり。
 此の如く勅令を發して漢言を奨励せられし
 かどし四百餘年來用ひ來りたり。吳言は一朝に
 して廢棄し難^也、當時多^ク好^ムは猶吳言を使用せし

痕迹今に歴々あり。依りて漢言奨励は一頓挫を
 來し延暦二十三年に經論の習義殊に言さ者は
 漢言に限ら勿れ、自今以後永く恒例と爲せとの
 勅令を發せられたるが、桓和天皇の貞觀十一年
 の宣符に頻年任意失^テ、漢言廢之而無試と見え
 たり。たれば、吳言擴斥の目的は全く絶望の結果を生
 じ、爾後典籍は漢語^音、西言混淆の濫海法とありし
 が、既に儒書には漢言の分量多く、佛經には吳
 言の分量多き傾向を呈し、以て今日に及びり。
 中日支文通廢絶、漢字傳來後六百餘年を経過し

宇多天皇の時菅原道真公の建業に依り遣唐使
を罷められたり。されども彼我分州の交通全く
絶えられたり。個人が私に往來貿易せし事以後
組として変化無かりき。
(唐音) 漢字渡來凡そ八百年を経て高倉天皇
の頃覺阿と云ふ僧宋に往き、明庵と云ふ僧帰朝
し、宋の禪僧と亦多く我が國に歸來して彼の國
の當時の言を我が國に傳ふ。此の時代の言を唐
音と稱すれども其の實は宋音なり。これ牙三次
の支那言にして、此の言は禪家に用ゐらるる

行脚の行燈。下火。椅子。看經。脚榻。竹篋
提燈の瓶。鈴。善清。焙爐。插鉢。卓袱。胡椒
薩菴の類。此れ其の料理に關する。詞多きは
禪僧は布教の外轉ら食物の調理法を研究した
るに依り、此の言亦稀には文學の上にも僅か
の影響を及ぼせり
行宮。行在。杏子。胡亂。好事。银杏。杜楸
趙子昂。孟浪。の類。此れ其の俗言又
は漢文にて讀むは人の嘲笑を受くが如き
俗言なり。奇とりぢし。

支那音) 支那にては明朝の頃より唐東の古音
 廢れて又々異なり。發音一般に流布する事と
 なり。此を支那音と稱す。現在彼の國々善通音に
 して亦四次の支那音なり。然れども實際に於い
 て南北全く統一せられず。南方北方の相違あり。今の
 彼の國人との交通には此の音を用ゐずんば相
 違ひの事無し。
 結論) 今、^{支那}に日本石科辞書に^{載せし}る表を示
 して本問題を結ぶ事尤の如し。
 其の沿革には一定の系統存して大に研究すべ
 き價興味ある事を覚すべし。

支那音	ハ	キ	ク	ケ	コ
漢音	行	行	行	行	行
唐音	行	行	行	行	行
吳音	行	行	行	行	行
今や韓國は我が皇化に滲びたり。彼の國民は彼 等の祖先が千六百年の昔始めて我が國に傳授 せし古音を逆輸入し、支那人も亦數千の醫學せ 我が國に來學して彼等が未だ古音を學習し たり。在りては、 ^{實地} 歴史上の一大奇蹟に非ずや。	京	經	東	來	

